



一人残らずの人が、それぞれの「生活の質」と「環境の質」のよりよい、持続可能な「共生」をめざして、「食を営む力」を形成し、実現できること！

◎地球の生物多様性（人間を含む）を育てあう「共食」

⑧気候変動やCOVID-19の世界的な感染拡大等地球サイズの「環境の質」の変化に対応した、よりよい「生活の質」との共生を目指して、自分、家族、身近な人びと、地域の人々と「食事」「食行動」「食活動」「食の営み」等について思い合い、考え合い、実行し、交流することなどを共有する

◎地域の人々と共「食活動」「食の営み」

④地域の「子ども食堂」や「たまり場」などの拠所で**地域の人々と、食事や「食行動」**を共にする

⑤**地域の人々とフードシステムの特徴を活かした活動や食情報システムの活動**を共にする

④⑤や⑥が拠所になって、さまざまな地域活動が育ち、その活動が「食行動」や「地域の食の営み」を支援し、**共食の場やチャンスをつくり、交流する活動が循環して発達**することを共にする、等

◎地域のサイズ（近隣、市町村、都道府県、国、大陸等）によって上記の行動や活動の共有の仕方が多種多様になる

◎身近な人と共「食行動」

③親族、学校・職場・組織等で、日常的に行動を共にしている人など**身近な人と食事や「食行動」**を共にする

②**家族と「食行動」**を共にする

①**家族と食事を共にする。**または、家族といっしょに食事を食べる

◎家族と共「食事」

共有する「食行動」や「地域の食の営み」

- 「食行動」
- 食事を食べる行動
- 食をつくる行動
- ☺ 「食を営む力」を形成し、発信、交流する行動

図3-1-◎ 人間生活から見た「共食」の概念(定義)とその重層性

作成:足立己幸(2008)の再修正を経て、一部修正(2021.7.4)◎一部加筆(2021.7.21)